

「さいたま市ゼロカーボンシティ推進戦略（素案）」に対する意見募集結果

意見番号	ご意見の概要	該当するページ/条項	件数	ご意見に対する市の考え方	修正等の対応
1	P1 2050年度の目標が0t-CO2 温室効果ガス排出量ゼロが良い P2 2030年のCO2削減量が2013年度比で-46%、2050年度のCO2削減量が-100%というロードマップ概要の表が良い さいたま市報などの広報誌で市民に広く知らせていただくことを希望します。	1, 2	1	本推進戦略を広く知らせていけるよう、広報手段についても検討してまいります。	いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます。
2	概要として6事例が紹介されておりますが、具体的事業・重点事業の7. 公民学共創に向けたパートナーづくりの2) 次世代技術の導入・活用から、以下のとおり追加掲載を希望します。 ・P7の②カーボンニュートラルガス（メタネーション党）の普及拡大、取組分類欄に●を入れ、新たなエネルギー利活用スキームに追加。 ・P10の7. ロードマップ2) 全体像の最下段に●カーボンニュートラルガス（メタネーション等）の普及拡大を新規に追加	7, 10	1	この推進戦略は、公民学共創によりあらゆる主体が実施していくことをイメージしておりますが、重点事業については市の事業として実施していくことを掲載しております。	素案のとおりといたします。
3	将来イメージが紹介されていますが、以下のとおり追加掲載を希望します。 ・「大宮駅周辺」に「中圧ガス導管」を道路上に記載し、周辺建物に「CGS（コージェネレーションシステム）」を追記。併せて凡例に「CGS：コージェネ」を追加。 ・「メタン製造所」から「都市ガス導管」を道路上に記載、公共施設等まで引き込み、「メタネーション等の活用」を追記。併せて公共施設の脱炭素化の図中に「公共施設へのメタネーションの供給」を追加。 ・「関連施設・事業」の7公民学共創に向けたパートナーづくりに「カーボンニュートラルガス（メタネーション等）の普及拡大」を追記	16	1	いただいたご意見のとおり、具体的事業や目標に記載されている「カーボンニュートラルガス」や「コージェネレーション発電」等の内容を将来イメージに反映します。	ご意見を踏まえ、P16の将来イメージを修正します。
4	将来イメージが紹介されていますが、以下のとおり追加掲載を希望します。 ・「大宮駅周辺」に「中圧ガス導管」を道路上に記載し、周辺建物に「CGS（コージェネレーションシステム）」を追記。併せて凡例に「CGS：コージェネ」を追加。 ・「メタン製造所」から「都市ガス導管」を道路上に記載、公共施設等まで引き込み、「メタネーション等の活用」を追記。併せて公共施設の脱炭素化の図中に「公共施設へのメタネーションの供給」を追加。	概要版	1	いただいたご意見のとおり、具体的事業や目標に記載されている「カーボンニュートラルガス」や「コージェネレーション発電」等の内容を将来イメージに反映します。	ご意見を踏まえ、概要版の将来イメージを修正します。
5	「さいたま市ゼロカーボンシティ推進戦略（素案）」に賛同します。	全体	1	この推進戦略により、脱炭素社会への取組を推進してまいります。	素案のとおりといたします。

6	昨今の社会情勢や他都市を牽引する役割なども踏まえて、先進的に取りまとめられた内容であると思いますので、大変、重要なものと感じています。今後、この実現に取り組んでいただきたいと思います一方、伝わりづらい部分も多いので、市民レベルでの取組や啓蒙についても、丁寧に進めていただきたいと思います。	全体	1	ご意見のとおり、社会情勢や他市町村への影響力を認識し、脱炭素社会の実現に向けて取り組んでまいります。市民に向けた取組や広報についても、着実に進んでまいります。	いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます。
7	3スライド目以降のタイトル（見出し）が分かりづらいので、もう少し見やすくした方が良いと思います。（例：1. 現状・課題 等）	全体	1	現在公表している素案については、ユニバーサルデザインの考え方にに基づき、多くの方に見やすいデザインを採用しております。	いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます。
8	現時点において、今回の内容は十分な内容と認識しておりますが、今後、国の計画等も改正されると思いますので、本計画も含めた市の各計画の見直しなど柔軟な対応はもとより、それに先駆けた対応などを期待しています。	全体	1	ご意見のとおり、今後も国の動向を注視し、計画の見直し等を行ってまいります。	いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます。
9	ゼロ・カーボンシティの説明がP30の用語の説明では違うのではないかと。	30	1	P30の用語説明では、環境省による定義を掲載しております。	素案のとおりといたします。
10	ゼロカーボンに係る問題は、さいたま市における1部門の問題ではなく、人口や産業政策、交通、エネルギーなどさいたま市総合振興計画ですらカバーできない範囲の国際的な問題であり、もっと上位計画に置き換えてはどうか。	全体	1	総合振興計画は、目指すべき将来都市像とその実現に向けた基本的な政策及び施策を総合的、体系的に定める計画で、本市の都市づくりを計画的に進めていくための指針となるもの。また、本推進戦略など各分野の個別計画については、総合振興計画と整合を図りつつ、より専門的かつ具体的なものとして定めており、役割は異なるものと考えております。ご指摘のとおりゼロカーボンについては、国際的な問題であると考えており、各分野とも連携を図りゼロカーボンシティの実現に向けて施策を推進してまいります。	素案のとおりといたします。
11	P4のグリーン成長についての説明、ゼロカーボンとの関連についての説明が必要と思う。	4	1	グリーン成長とは、国の環境白書に準じ、括弧内に標記した“環境・経済・社会の好循環”としております。また、近年では、経済成長しつつ、温室効果ガス排出量を削減するデカップリングの可能性が取り上げられています。このような経済成長も視野に入れ、検討を進めております。	ご意見を踏まえ、用語集に解説を追加いたします。

12	P 5 の基本的施策の項目分けについて、どのような基準としているのか。	5	1	基本的施策については、ゼロカーボンシティを目指すために実施していく分野を大枠として捉えて位置付けております。	素案のとおりといたします。
13	市内の現在及び2050年のエネルギー量や増加予測、資源量や循環比率、グリーンインフラでの炭素固定量などを明示し、計画達成の根拠と数値目標を明示すべきである。また、市内でのエネルギー生産は太陽光以外はほとんど認められず、他地域から導入、消費しているの、科学的データや具体的知見に基づいた計画を責任ある行政として立案し、提案実行すべきと考える。	全体	1	エネルギー量や資源量など数値に関しては各種統計等を用いて推算算出し、推進戦略の根拠としております。ご意見を踏まえ、脱炭素社会に向けて、施策の推進してまいります。	いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます。
14	都市間連携中枢都市にふさわしいまちの意味が不明である。	4	1	都市間連携中枢都市にふさわしいまちとは、さいたま市総合振興計画基本計画に掲げる将来都市像として、東日本全体の活性化をけん引する中枢都市として、国内外からヒト・モノ・情報を呼び込み、新たな地域産業や市民活動等の多様なイノベーションを生み出すことで、市民や企業から選ばれ、訪れる人を惹きつける魅力にあふれる都市、のことを指しています。	素案のとおりといたします。
15	公共施設以外の施設への対応や再エネ使用率の増加など、具体的に実行しないと目標は達成できない。そのために各主体の役割を明確にして、全ての施策において環境を最優先課題にしないと、いけないと考える。	全体	1	ご指摘のとおり、カーボン総量の減少、効率化、技術革新と共に文明の方向転換を行い、大量生産、大量消費、大量廃棄の持つ非環境性を認識していくことは非常に重要と考えます。当市としては上記考えを踏まえつつ、各分野とも連携して施策を実施してまいります。	いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます。
16	閉鎖状態となっている土地を利用して、防災公園として浄化槽を備えたマンホールトイレの設備や太陽光発電と蓄電池を設置するなど、ゼロカーボンシティ推進の枠組みに加えてほしい。	全体	1	ゼロカーボンシティへ向けて、あらゆる主体が様々な施策を推進していく必要がございます。ご意見につきましては今後の参考とさせていただきます。	素案のとおりといたします。
17	本素案のとおり賛同します。ただし、P 7 下から 3 行目の文章中「・・・選定枝等・・・」とあるのは「・・・剪定枝等・・・」に変換すべき。	7	1	賛同意見ありがとうございます。また、ご指摘いただきました部分については要修正箇所となります。	ご意見を踏まえ修正いたします。
18	P 8 - 6 について、取組の効果、指標中「取組の効果」欄の下から 6 行目の「緑地等の適切な整備による温室効果ガスの排出量の削減」と記述されています。緑地等の整備によって温室効果ガスが直接削減されるのかとも受け取れるのですが、緑地の整備等、例えば緑林や森林の間伐、里山の整備、農地の保全等々によって温室効果ガス吸収が増加することにより削減効果が生ずるものと理解している。	8	1	ご意見のとおり緑地は二酸化炭素吸収減として重要な役割を果たすものです。さいたま市域では全体の量としては大きくないかもしれませんが、生物多様性との兼ね合いなど、他分野との関連と併せて取組を推進してまいります。	ご意見を踏まえ、表現を一部修正します。

19	本推進戦略を成功させることは容易ではありませんが、今この時期に何もしなければ地球は住みにくくなってしまうという危機意識を皆が持ってライフスタイルを見直し、二酸化炭素排出量削減に向けた生活をしなければならないと思う。生活に必要なエネルギーは再エネを利用し、移動にはEV車や水素自動車等温室効果ガスを排出しない車又は自転車を利用することにしたいものである。また、EV車等を利用しようと考えている人も多くいると推測するが、EV車等は高額のため買換えが進まないのが現状のため、補助金制度を拡充してEV車等の普及促進を図ることが求められる。	全体	1	ご指摘のとおりあらゆる主体が危機意識を持ちながら将来に向けた取組を推進していく必要があり、本推進戦略についてもその点を踏まえた周知啓発を実施したいと考えます。また、EV等の導入促進に向けて、補助制度等の拡充を図ってまいります。	いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます。
20	市民等に対する本推進戦略に対する周知徹底及び目的意識の高揚と継続を図るため、適宜本推進戦略の達成度合いを分野別に取りまとめた数値を公表するものと思われるが、達成度合いの公表によって市民等の省エネ、温室効果ガス削減努力がどれだけ報われたか数値を見て理解し、同時にモチベーションが高まり一石二鳥の効果がある。	全体	1	本推進戦略の進行管理の中で、ご指摘のとおり目に見える成果を公表することにより相乗効果が期待できるものと考えます。ご意見につきましては今後の参考とさせていただきます。	いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます。

■ 集計結果

意見提出者数	7名
意見項目数	20件
修正項目数	5件